

矢櫃地区
人のにぎわい創出プロジェクト
取組報告書

2018年3月17日
プロジェクト報告会
(発表者：馬場)

矢櫃（やびつ）地区について

- ・市の南西部に位置 ・海に面した坂のまち
- ・かつては漁業や観光業が盛ん
- ・約70世帯
- ・アクセス：有田市役所より車で約15分
- ・初代紀州藩主 徳川頼宣公によって拓かれた



矢櫃地区の特性①



車が入らないせまい道



急峻な坂道

矢櫃地区の特性②



海に面した自然豊かな風光明媚なまち



矢櫃地区の特性③



紀州初代藩主：徳川頼宣ゆかりの地

写真：「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」
公益財団法人全国漁港漁場協会

現状

- 人口

1990年 630人 (女ノ浦地区含む) (国勢調査)



2016年 263人 (女ノ浦地区含む ※内矢櫃のみ175人) (住民基本台帳)

- 高齢化率

約48% (有田市全体 30.3%)

- 空き家率
約44%
(有田市全体 約10%)



(2015年空き家調査)

縮尺(1: 1,500)

課題

市内でも突出した高齢化率および空き家率

・・・コミュニティ機能の低下による生活困難



有田市の20年・30年後の姿

市の課題が最も先行している地域

この事業の目的

①【交流人口の増】

矢櫃地区に人を呼び込みにぎわいを創出すること

②【定住人口の増】

地域の担い手となる移住者を増やすこと

これまで取り組んだこと

①【交流人口の増】

矢櫃地区に人を呼び込みにぎわいを創出するために



多くの人に矢櫃に関わってもらおう機会をつくった

◆和歌山大学との住民ヒアリング (2016年8月～9月)

矢櫃地区のみなさま

こんにちは！

はじめまして。私たちは和歌山大学観光学部の学生です。

私たちは現在、有田市役所の方々と一緒に空き家を利用した
矢櫃地区の活性化をはかる活動を行っております。

その活動のひとつとして、学生たちが矢櫃地区のお宅を一軒
一軒訪問し、お話を伺いに参ります。

矢櫃の魅力、好きなどころ、矢櫃に住むきっかけや改善して
ほしいところなどなど、沢山のお話をお聞かせください。

ご協力よろしくお願いたします。

和歌山大学 観光学部
空き家活用による
地域活性化プロジェクトメンバー 一同より



お問い合わせ：有田市役所経営管理部経営企画課
☎0737-83-1111



◆空き家を1軒改修

○大学生による測量



○DIYイベント ・ 内壁塗装 (2017年2月)

参加費 各日程 5名 ※先着順
個人・ご家族での参加or!

セルフリフォームやDIYを
やってみたい方!
田舎へ移住を考えている方!!
ご家族皆さんで楽しみながら
学びたい方!!

参加日
一日のみ(食事1食付) 1,000円
二日間(食事2食付) 2,000円

※お子様の参加費に関してはご相談ください。

DIY体験 in 有田

お申し込み方法 ・ お問い合わせ

有田市役所
経営企画課
TEL 0737-83-1111
FAX 0737-82-1725
MAIL keieikikaku@city.arida.lg.jp

イベント内容 空き家の改修工事体験 和歌山県 (塗装体験)

風光明媚な有田市矢櫃地区にある、元々住居であった空き家を交流拠点として利用できるよう、職人さんと参加者の皆さんで、塗装等の作業を行っていただきます。

開催場所 有田市矢櫃 集合場所等の詳細は、申込受付後に案内させていただきます。

主催：有田市 運営：NPO法人 空き家コンシェルジュ

第1回 2/24 (金) 9:30 ~
第2回 2/25 (土) 16:00



・ベンチ作り (2017年4月)

DIY体験 in 有田 第2弾
～海の見えるまちでベンチをつくりませんか～
2017.4.15 Sat. 10:00～16:00

定員 10名 参加費 1000yen

【場 所】有田市矢櫃地区 (有田市室崎町1711-2)
【申込方法】①氏名 ②年齢 ③住所 ④電話番号 ⑤メールアドレス を記載のうえ、
件名を「有田市DIY体験」とし、メールでお申し込みください。
後日、有田市より詳細をご連絡させていただきます。(締切:4月10日 ※先着順)
【申込先・問い合わせ先】有田市役所 経営企画課
E-mail: kelekikaku@city.ariake.lg.jp TEL:0737-83-1111

◇当日プログラム(予定)◇
10:00 矢櫃散策 (グループに分かれてベンチを置く場所を考えます。)
12:00 昼食 (矢櫃名物かまぼこはん・地元産牛乳を使ったデザート)
13:00 DIY体験 (地元大工さん指導のもとグループベンチ作り)
16:00 終了

主催: 有田市・矢櫃地区自治会



◆約30年振りに伝統行事が復活



有田の伝統行事 「裸参り」が復活

三十数年ぶり

初代紀州藩主・徳川頼宣（1602〜71年）の遺徳をしのび、江戸時代から30年以上続く有田市宮崎町・矢櫃地区の伝統行事「お日待ち」（市無形民俗文化財）が8日に行われ、今年は三十数年ぶりに「裸参り」が復活した。

雨の降り続く午前9時、和歌山大の学生や市職員ら計12人がふんどしに鉢巻き姿で海中へ。大勢の住民らが見守る中、約80分を泳いで身を清め、高台を駆け上がって頼宣をまつる地区の南龍神社などを参拝した。

お日待ちは、無人だった地区に集落を開き、漁業を奨励した頼宣に感謝する地域ぐるみの行事。漁業の衰退などから若者の流出が相次ぎ、20歳代が中心となる裸参りは1980年前後から途絶えていた。

人口は約170人と、この25年で約6割減。高齢化率も高く、市が昨年から活性化策を検討。同大学観光

雨の中、海に入って身を清める学生や有田市職員ら（有田市の矢櫃漁港で）



学部が協力し、学生らが住民から話を聞く中で裸参りを懐かしむ声が出て、実施が決まった。

参加した同大学4年の野尻野翼さん(23)は「地域の人が笑顔になったのがうれしい」と話し、自治会長の古川浩一さん(74)は「地区がこんなに活気づくのは久しぶり」と喜んだ。

9日もあり、自治会が海南市の紀州徳川家菩提寺・長保寺を参拝し、頼宣の好物の小豆を供える。

H29.1.9 読売新聞 (和歌山欄)

2017年1月

大学生、市職員が中心だった昨年に比べ、地元出身者や関係者が昨年より **4名増**



2018年1月

◆ 1日カフェ

有田市移住交流拠点施設『くらしちやる矢櫃』 (2017年5月、7月)

1日カフェ
in くらしちやる矢櫃
2017.5.21 Sun.
10:00-16:00

入退場 自由

海の見える矢櫃でオープンする移住交流施設(くらしちやる矢櫃)で1日カフェを開催します!

当日は、カフェ経験のある地域おこし協力隊が提供するおいしい水出しコーヒーをお楽しみいただけます。

また、施設の内覧も実施しますのでお気軽にお越し下さい。

「矢櫃展」開催!

粗品を進呈!

地元住民が選ぶ矢櫃のおすすめスポット紹介!

▽アクセス
住所: 有田市宮崎町1711-2
矢櫃入口専用駐車場から徒歩約5分

▽アクセス
住所: 有田市宮崎町1711-2
矢櫃入口専用駐車場から徒歩約5分

【主催】有田市・矢櫃地区自治会

1日カフェ
in くらしちやる矢櫃Vol.2
2017.7.22 Sat.
10:00-16:00

入退場 自由 無料

「くらしちやる矢櫃」は矢櫃地区での暮らしを体験できるお試し居住や有田市の移住情報の発信などを行ってまいります。

7/22のオープン当日は、矢櫃にゆかりのある徳川頼宣公にちなんで甘い和菓子とお茶をご用意、併せて現地にてお試し居住の受付を行います。皆様気軽にぜひお越しください。

手作りのパッチワーク販売

手作りの矢櫃野菜販売

お試し居住の現地受付します!

▽アクセス
住所: 有田市宮崎町1711-2
矢櫃入口専用駐車場から徒歩約5分

【主催】有田市・矢櫃地区自治会

*同時開催!! 「くらしちやる矢櫃のベランダから花火鑑賞」くらしちやる矢櫃のベランダから眺められる花火を鑑賞しませんか? ご都合の方は、花火の時間(20:00頃)にくらしちやるへ!!



来場者数
計 約320名

◆地元住民指導による釣り体験
(2017年8月)



◆子どもクラブ主催ハロウィンイベント
(2017年10月)

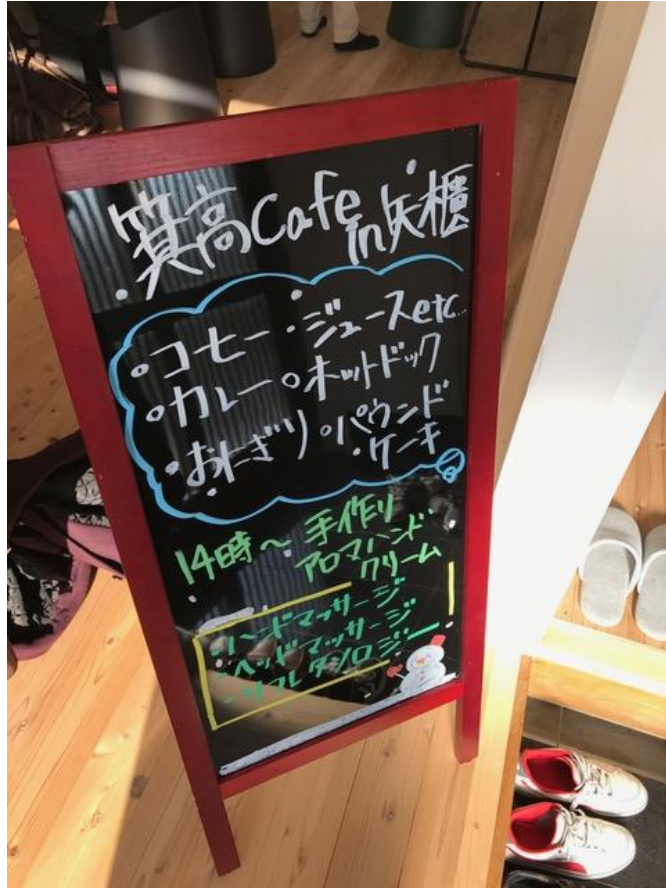


◆箕島高校生との取り組み

- ・案内板の作成、設置（2017年6月）



・箕高カフェ in くらしちやる矢櫃
(2017年12月)



◇2016年～2018年の取り組み一覧◇

2016年8月～9月：和歌山大学生による住民ヒアリング

2016年10月：和歌山大学生成果発表会

2017年2月：D I Yイベント 第1弾

2017年1月：お日待ち

2017年4月：D I Yイベント 第2弾

2017年5月：1日カフェ（プレオープン）

2017年6月：箕島高校生徒の案内板協議

2017年7月：1日カフェ（オープン）

2017年8月：釣り体験モニター

2017年10月：ハロウィンイベント

2017年12月：箕高カフェin矢櫃

2018年1月：お日待ち

2018年2月：旅する編集学校（京都事前講座）

2018年3月：旅する編集学校（矢櫃現地取材）

以上の取り組みを通じて、のべ約450名の方が何らかのかたちで矢櫃に訪れたり関わりを持った。



これまで取り組んだこと

②【定住人口の増】

地域の担い手となる移住者を増やすために



移住交流拠点施設の開設とお試し居住の受け入れ

◆ 『移住交流拠点施設 くらしちやる矢櫃』 オープン

2017年7月22日





改修前



内装の塗装はD I Yイベントで



改修後



◆ 『移住交流拠点施設くらしちやる矢櫃』の利用状況

○平成29年7月22日～平成30年3月17日までの利用実績

計8組 約50名の方がくらしちやる矢櫃でお試し居住を体験した

○明日（H30.3.18）以降の利用予定

平成30年3月：1組 5名

平成30年4月：3組 7名

平成30年5月：2組 8名

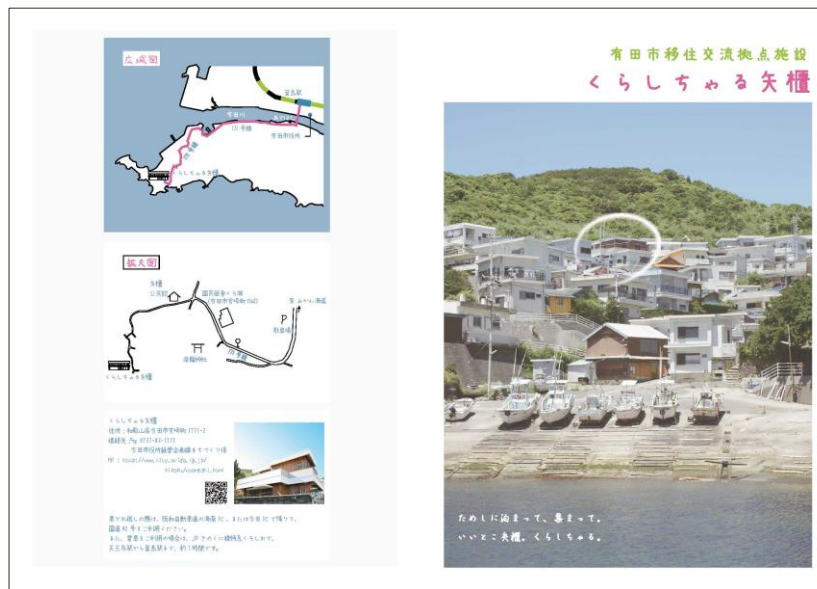
平成30年7月：1組 4名

計7組 24名

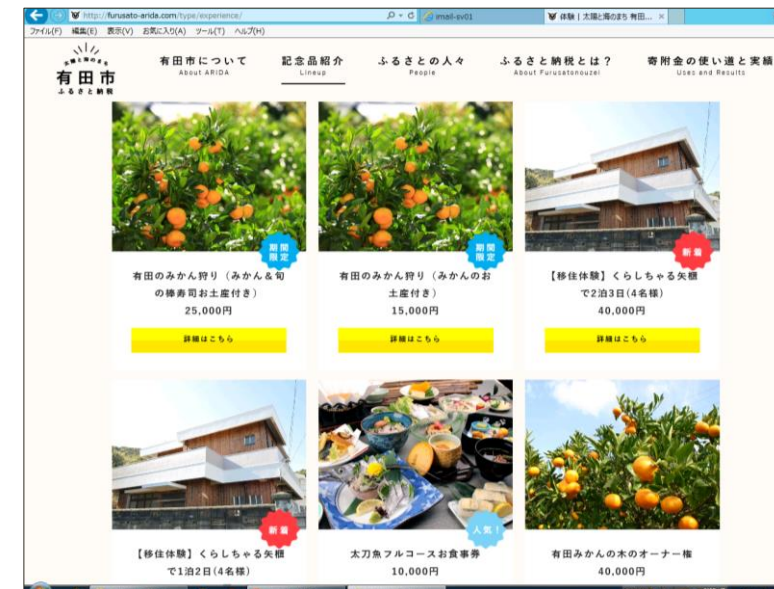
○くらしちやる矢櫃の広報について



有田市HP



くらしちやる矢櫃パンフレット
(移住フェア等で配布)



ふるさと納税の返礼品

○くらしちやる矢櫃運営協議会設立 (2017年6月)

- 地元住民を中心に構成
- 鍵の受け渡し、シーツ貸出し
- そうじ 等

〇くらしちやる矢櫃の利用促進に向けて

『旅する編集学校』・・・くらしちやる矢櫃、矢櫃地区の広報事業の一環として実施

・旅する編集学校とは

2018年京都にて開校。編集・執筆、そして写真撮影のスキルをプロに学び、そこで出会った仲間とともに「オモシロいローカルエリア」にお邪魔して、地域の情報を編集して地域の内外に届けるプロジェクト。編集という切り口で、都市部と地方を結ぶことを目的としている。

参加者は事前に京都でそれぞれの講座を受講し、実際に矢櫃地区へ訪れ、地域住民の方に取材を行い、記事としてまとめて冊子を制作する。



○読者イメージ

世に優勢を占める価値観ではなく、自分自身の価値観に基づいて人生を歩みたいと願っている人たち。「いつかどこかに移住したい」という思いを持ち、相性の合うまちを探している人たち。

○冊子のゴール

「一度矢櫃に行ってみたい！」

「くらしちやる矢櫃を利用しよう！」

「矢櫃でこの人に会いたい！」

「矢櫃で暮らしたら」

・・・などの気持ちを喚起し、行動を促すこと

2018年3月10日～3月11日 旅する編集学校 @矢櫃

編集作業



写真撮影のようす



インタビューのようす



取材記事発表



参加者の皆さん



○今後の課題と取組み

◇くらしちやる矢櫃の利用促進

- ・利用者がより柔軟に使える仕組みづくり

◇1回のイベントが目的でなく、それらを通じて人が集まることで、次の新しいことが生まれる機会を作り出すこと

◇空き家の活用